
矢文

美春

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

矢文

【Nコード】

N2426D

【作者名】

美春

【あらすじ】

あたしと先輩は弓道部所属。あたしは「先輩にただ「好き」と伝えることすら叶わない。恋心を知ってか知らずかき乱す俺様系先輩としぶしぶながら従ってしまうあたしの不器用な恋。一応、ラブコメ。たまにシリアス有り。

第1話 責任

「惚れさせたのは、俺の責任だから」

そう低く呟いて、先輩はあたしの眼を見た。

「えっ？」

何を言われたのか理解できない。

皆も、固まる。

おーい、皆カムバック！！

「弓道、惚れさせたの俺だろ？」

「・・・、はい。」

ああ、期待したあたしが馬鹿だった。

第2話 微妙な関係、事の始まり

あたしと先輩の関係は、ただの先輩後輩関係じゃなく・・・

「ひろひろ　おはよ」

むぎゅー

先輩が、スカート履いてる？！って、思うくらいそっくりな女の子。ただし、背は低め。

はい、先輩の妹さんです。兼友達です。

「朝から、抱きつくなくて！！しかも、ひろひろって何だよー」

「えー？ひろひろ、朝駄目なら夜でもいいよー」

「ええ加減にしろ！そしてまだ、抱き付いてんじゃねー」

はい、こんな感じで

先輩の妹＝友達

先輩＝友達の兄貴

なわけです。

うわー、改めて考えたら凄い微妙過ぎる関係だな・・・。

こいつに変なことはなしたら、筒抜けじゃん！！今更ながら、思う。

ああ、どうしてこうなっちゃたんだろう？

あたしは、平穩無事で楽しい高校生活を送る予定じゃなかったのかなー？

空に問い掛けてみたが、無論返事は無し。

ただ、突き抜けるような青空が広がるばかりでありました。

そもそもの始まりって何だったんだろう？この学校を志望したことから、間違っていたのかもしれない。

名誉か不名誉か、変人の多い学校として有名な我校。
中高一貫教育で、新設校。
ついでに言えば、県内トップレベルの進学校。

志望理由、弓道部が強いから。

家から、直線距離50キロ離れた高校に誰が行こうと思うか？

はい、ここにいました！（笑）

寮完備ってことで、寮決定。

一人娘を離す両親は、

さぞや悲しむだろうと思いきや

「可愛い子には、旅をさせろってことでー」

「お父さんは、嬉しいぞ。お前が、弓道をやってくれるって言うので。弓買ってあげよう」

案外悲しまず。

ちなみに父は、弓道家です。

娘は、悲しく思いました。

まあ、そんな感じで

高校入学決定。

はい、入学式。

真新しい制服に身を包み

高校生になったんだなーなんて実感。

ただ、異常に長いスカートには閉口。

中学時代、膝上だったし。

昔のスケバンじゃないのか？と突っ込んでみる。

クラス分けを見、喜んだり悲しんだりしている中学組を横目に見つ
つ我クラスへ。

はい、そこで出会った子が

大崎真奈美

先輩の妹。

出席番号が近いこともあり、話し掛けられた。

「井淵実尋さん？初めましてー。高校組？よろしくー」
やたら、フレンドリー。

「どこの部活はいるとか決めた？」

「うん、弓道部に入る・・・」

「弓道部にだけはやめとき。いかん、いかん」

「何で？弓道部に入るために、この学校来たんだけど」

「だって、性格悪い先輩がいるよ、・・・だけど」

「えっ？」

「うちの兄、弓道部なんだー」

思えば、最初の始まりはここだったのかもしれない
など後から思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2426d/>

矢文

2010年10月21日20時16分発行